

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成27年8月6日(2015.8.6)

【公表番号】特表2013-531688(P2013-531688A)

【公表日】平成25年8月8日(2013.8.8)

【年通号数】公開・登録公報2013-042

【出願番号】特願2013-519601(P2013-519601)

【国際特許分類】

A 0 1 N 43/60 (2006.01)

A 0 1 P 3/00 (2006.01)

A 0 1 P 21/00 (2006.01)

C 0 7 D 241/08 (2006.01)

C 0 7 D 403/06 (2006.01)

【F I】

A 0 1 N 43/60

A 0 1 P 3/00

A 0 1 P 21/00

C 0 7 D 241/08

C 0 7 D 403/06

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年6月9日(2015.6.9)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 9】

本発明の農業的薬剤に含まれる賦形剤、希釈剤は、農業分野で通常的に使用されているもので、例えば、珣藻土、消石灰などの酸化物、燐灰石などのリン酸塩、石膏などの硫酸塩、クレイ、カオリン、ベントナイト、酸性白土、石英、シリカなどの鉱物質粉末などの固体担体と充填剤、抗凝集剤、界面活性剤、乳化剤、防腐剤などをさらにも含んでもよい。また、本発明の農業的薬剤を植物に処理して活性成分を迅速放出、徐放出、遅延放出するように当業界の公知方法を用いて剤形化してもよい。剤形化のためには、通常的に使用する界面活性剤、希釈剤、分散剤、補助剤などの添加剤を活性成分と配合して水和剤、懸濁剤、乳剤、乳濁剤、微乳濁剤、液剤、分散性液剤、顆粒水和剤、粒剤、粉剤、液状水和剤、水面浮上性粒剤、錠剤などの各種形態に製剤化して使用してもよい。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 0 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 0 2】

製剤例 2

乳剤

化学式 1 の化合物 1 0 g、DDY 2 0 0 0 (界面活性剤) 1 0 g、キシレン 8 0 g を混合して乳剤を製造した。